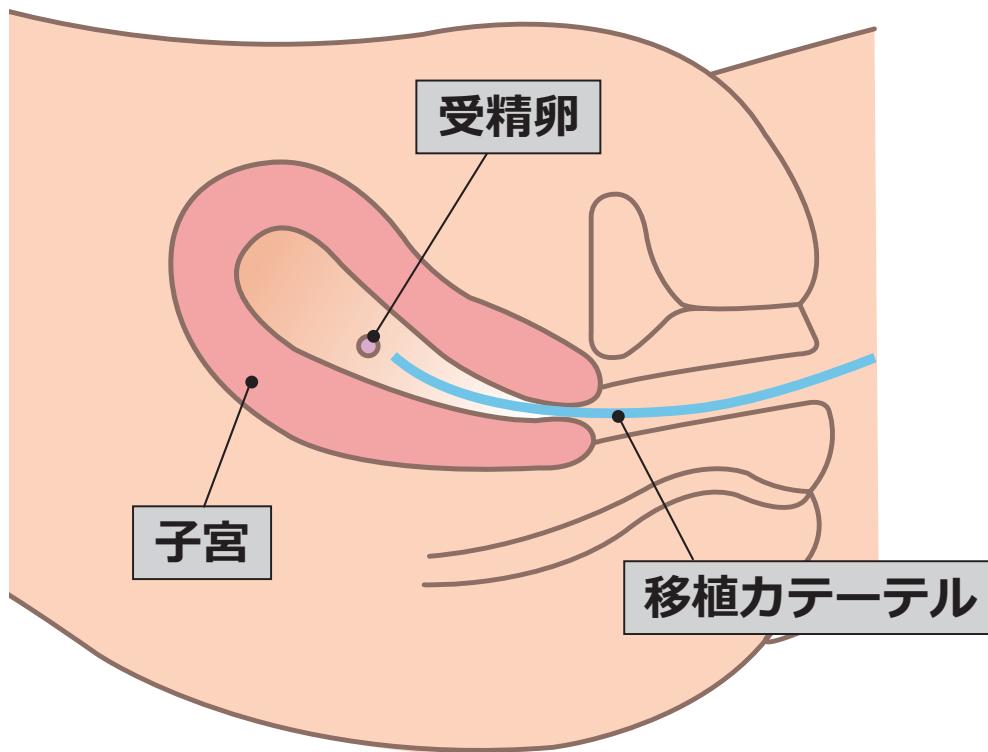


胚移植（ET）

胚移植（ET=Embryo transfer）とは、体外受精で受精した胚（受精卵）をお母さんの子宮内に戻し、無事に着床することを期待する治療法です。

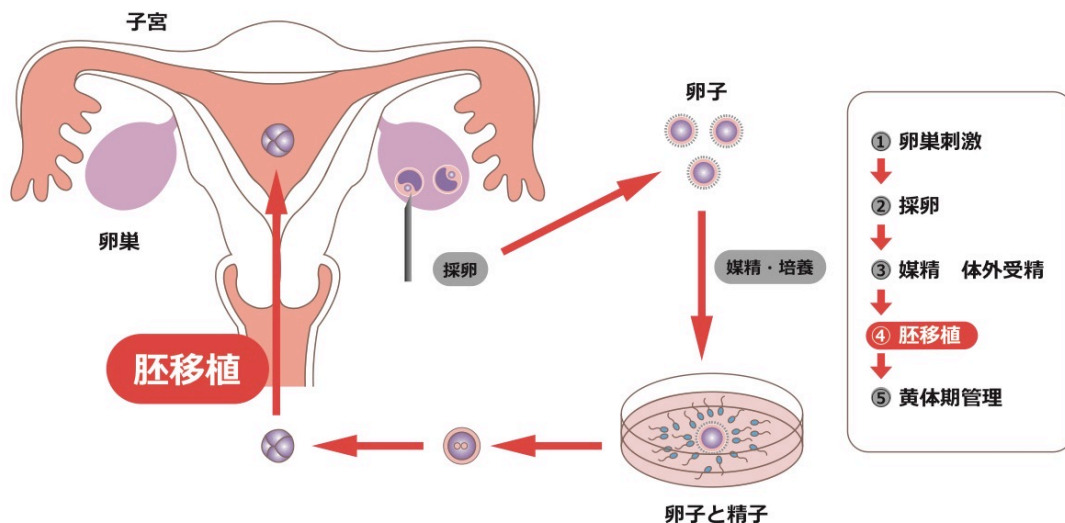


4～8細胞期胚（初期胚／採卵2～3日後）もしくは胚盤胞（着床時期の胚／採卵5日後）まで育てた胚の中から、最もグレードのよいものを1個（※）選び、カテーテルを使って子宮内にそっと戻して、着床してくれることを期待します。

（※）2個以上の移植は双子妊娠のリスクがあるので当院では1個移植を推奨しております。

胚移植 (ET) の流れ

卵子と精子の受精を確認したのち、受精卵をさらに培養液の中で育て分割を進行させて、採卵から2日～3日目の初期胚、または5日目で胚盤胞になったら子宮内に移植するのが基本的な流れです。



移植と胚盤胞移植

媒精・培養で確認できた受精卵の数とグレード評価によって、胚移植の日程が決まります。

初期胚移植

受精後2～3日目の初期胚を移植する方法です。

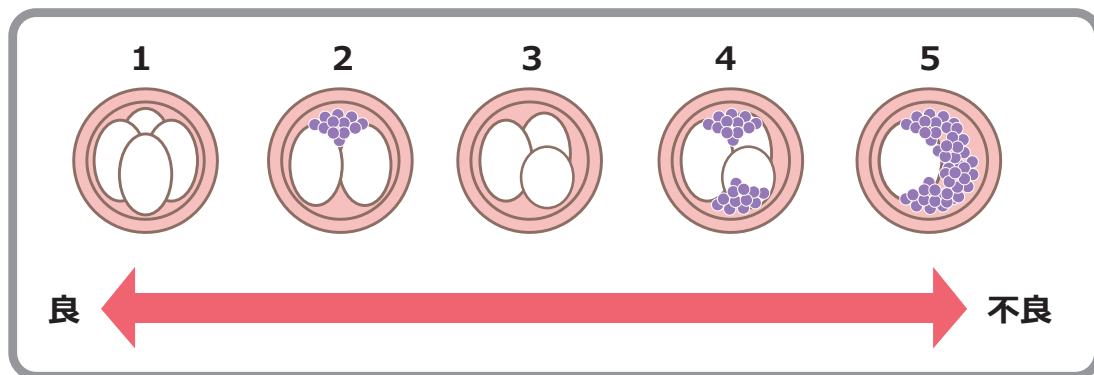
胚盤胞移植

受精卵を5-6日間培養し、胚盤胞と呼ばれる着床準備状態の胚を移植する方法です。

胚盤胞移植は、移植あたりの妊娠率が初期胚移植より高いと言われています。

しかし、胚盤胞まで育たない場合もありますので、移植方法は慎重に選択することが必要です。

胚のグレード評価 (初期胚・2～3日目)



初期胚移植と胚盤胞移植 メリットとデメリット

2日目・3日目の初期段階で良好な胚であっても、移植後に胚盤胞まで発育する胚であるかどうかを見分ける事はできません。

その点、胚盤胞移植では子宮に着床する直前の胚盤胞まで発育した成功率の比較的高い胚を移植することができます（最後まで見届けてからの移植）。

一方で、初期胚が胚盤胞の段階まで到達できるかは保証できません。

胚がほとんど、あるいは全く発生することなく体外受精-移植周期を終了せざるを得なくなる可能性があります。

体外で発生が止まってしまった胚をもっと早くに子宮に移植していたら生存していたかもしれない可能性があります（体内の方がより良い環境であった可能性）。

胚移植 当院の強み

患者様にご納得いただける説明と移植

当院では胚移植の前に、担当の技師より画像を使って患者様の胚のグレードの説明をさせていただいております。

胚移植や胚のグレードについての質問もその場でお答えしておりますので、患者様にご納得がいく移植を受けていただけます。

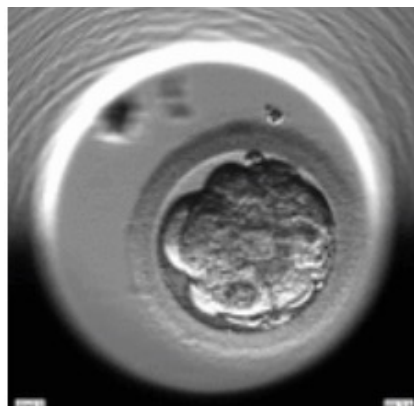


タイムラプス培養器

当院では胚（受精卵）を培養したまま発育を連続的に観察できるタイムラプス培養器を導入しました。

これまでは観察の都度胚を培養器から出し顕微鏡下で観察する必要がありましたが、タイムラプス培養器では培養器内で24時間定時撮影が行われるため、環境変化による胚に対するストレス軽減が期待できます。

また受精や胚分割のタイミングが観察可能となり、よりきめ細かい胚の質の評価が可能になり妊娠率の向上が期待されます。



🌸 移植の後は普通の生活をしてもいいの？

- ▶ 移植後は、激しい運動や夫婦生活、温泉や公衆浴場やプールなどを控えてください。（膣から雑菌が入り、炎症を起こす可能性があります）

特に安静にする必要はありません。
ご不明な点がございましたら、必ずご相談ください。



🌸 胚移植って痛いのでしょうか…？

- ▶ 移植は痛みもなく、約10分くらいで終わります。
膀胱に尿が溜まっていると、膀胱が子宮を抑えて真横になり、膣にスムーズにカテーテルが入れやすくなります。
移植の前に詳しく説明をさせていただきます。

